

15周年記念誌



長崎青年協会

長崎青年協会憲章

我々は、会員の団結と

相互扶助の精神の基に、

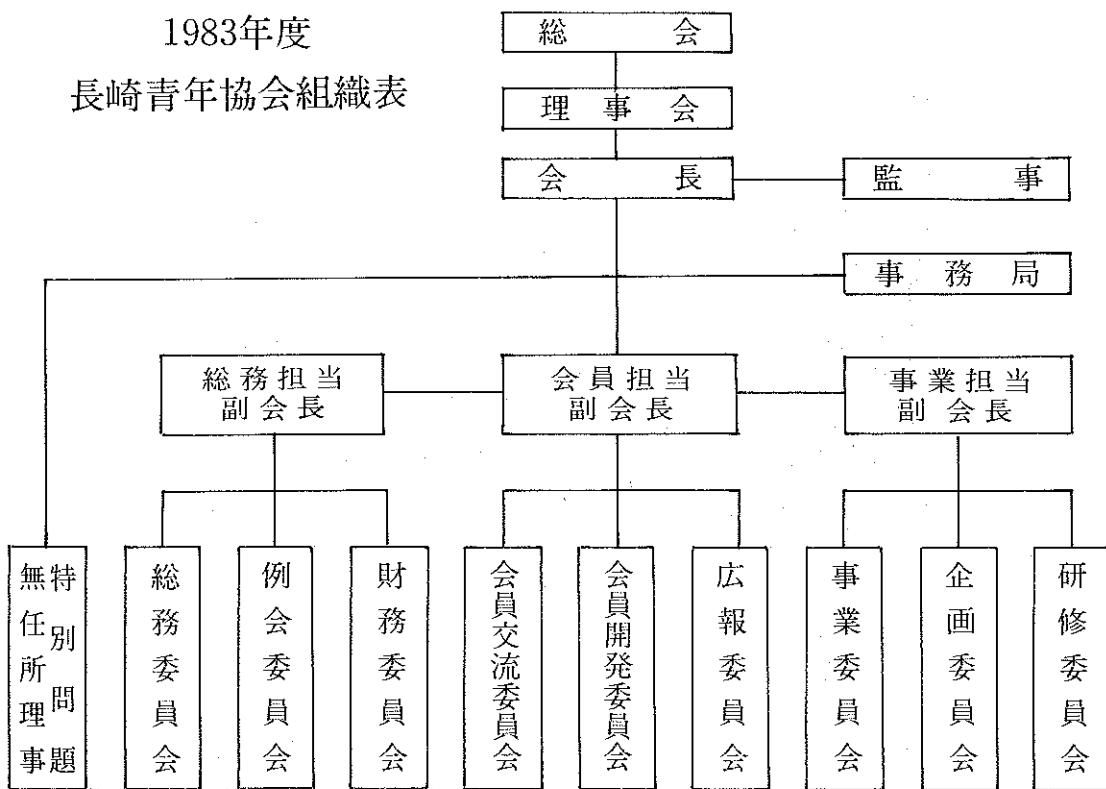
自己の建設と会員の親睦

を図り、もつて地域社会

の発展に寄与することを

目的とする。

1983年度
長崎青年協会組織表





発刊のことば

長崎青年協会

会長 勝本 博文

昭和四十四年三月、会員の団結と自己の建設を図り、種々の実践活動を通じて、地域社会の発展に寄与する事を目的として、志を同じくする七人のメンバーで、設立した長崎青年協会も本年を以って、十五年目を迎える事となりました。

今回記念誌発刊にあたり、会を代表して、御挨拶申し上げます。青年協会十五年の沿革にもあります様に、その間、多くの对外事業を通して、一歩でも憲章の目的に達すべく、今日迄会員一同、微力ながら努力してまいりました。その過程におきましては、長崎市を中心とする地域住民の皆様、並びに関係諸団体の方々には、並々ならぬ御支援、御協力を仰ぎ、社会情勢の大きな変貌の中で、今日まがりにも、地域社会に確立した団体として、その存在を認識されるに至り、深い感謝の念で一杯で御座居ます。

又、来年度は、社団法人長崎青年協会として、新しい第一歩を踏み出すに至りました。これを機会に、八十数名の集団の英知と、行動力の結集を図り、研修を重ね、数々の对外事業を通して、地域社会に密着した、ローカル色の強い団体として、国際都市長崎の住みよい町づくりに努力邁進して行く所存で御座居ます。先輩諸兄のみならず、関係諸団体の皆様の、今後ますますの御指導、御鞭撻を御願い申し上げて、発刊のことばと致します。

目次

表紙 西坂町より長崎港を望む
(中央は例会会場の長崎ビル)

発刊のことば（会長勝本博文）	1
祝 辞（長崎県知事 高田勇氏）	2
十五周年を祝す（長崎市長 本島等氏）	2
発起人紹介	3
長崎青年協会沿革	4 ～ 5
十五周年を迎えて歴代会長に聞く	6 ～ 11
地域社会に貢献する長崎青年協会	12 ～ 13
十五周年記念座談会	14 ～ 17
「長崎青年協会を考える」	
歴代会長・OB名簿	
役員（理事）名簿	18
会員（委員会）名簿	19
「社団法人」化への背景	20
長崎青年協会の歌	
編集後記	
21	21

祝 辭

長崎県知事 高田 勇



創立十五周年を祝す

長崎市長 本島 等



長崎青年協会が、設立十五周年を迎えたことを心からお喜び申し上げます。

長崎青年協会には、昭和四十四年三月に、数名の有志の方で設立されまして以来、福祉活動や文化財清掃などボランティア活動に尽くされ、多大の成果を収められましたことは、まことに意義深く衷心より敬意を表するものであります。

若い世代のひとびとが、崇高な理想のもとに、会員の団結と相互扶互を図り、地域社会の振興に寄与されますことは、まことに喜ばしく力強い限りであります。

新しい時代、新しい社会は、新しい草袋にmolられるべきで、皆様のようない方々の新鮮な、感覚と燃える情熱に期待するもの、極めて大きいものがあると申さなければなりません。

どうか皆様には、青年協会の憲章に基き、積極的な社会参加によりて、明るく住みよい郷土づくりに貢献されるとともに、輝かしい未来を招いていかれますよう念願いたします。

終わりに、長崎青年協会のなお一層の御発展と会員各位の御活躍を祈念しまして、お祝いのことばといたします。

長崎青年協会の創立十五周年を心からお祝い申し上げます。創立の年昭和四十四年は、国民スポーツの祭典、長崎県民あげて開催された長崎国体の年でした。一方、学生運動が激しく東大安田講堂が占拠される事件が起きた等騒然とした年でもありました。

弥生三月、平均年令二十五才の有志で希望あふれる若き青年達が、自己の建設と地域社会の発展に資する為ともした灯は、十五年間、消えることなく今日まで守り続けてこられました。十五年間の長い間の歩みには、継続事業として続けられている文化財の清掃、お年寄りや恵まれない子供達の各種行事招待、チャリティー行事、最近では、長崎平和推進協力への加入、山陰水害義援金募金、市内各自治会へのゴミかご配布等々、行政サイドでは手の届きにくい所へのきめ細かな活動であり、常に敬服いたしている所であります。又、

毎月の例会にはそれぞれ政財界、報道機関、弁護士、僧侶から外国人に至るまで各方面に亘る多彩な講師を招き研鑽を積まれています。私も何度か、講師の榮に浴し市政について話す機会をいただき、皆様の鋭い質問を浴びました。承りますと、現在来年四月を目指し現在組織の法人化について準備が進められているそうですが、誠に新

取の気性、常に将来の展望を忘れぬ本会の前途は、輝かしく、新たな飛躍への努力が大きく実を結ぶようお祈り申し上げる次第です。どうか皆様十五周年を契機とされ、新たな決意の下で、今後共長崎市勢の発展のため一層御活躍下さいますよう、お願ひ申し上げます。青年協会のますますの御発展と会員各位の御隆昌を心から、祈念し祝辞といたします。

設立発起人紹介

(五十音順)

ウォーカーデニス氏



勤務先

フエアーチャイルドジャパン
建設設備担当マネージャー

住所
現住所

諫早市貝津町1883
長崎市文教町11の1

TEL(48)5291

小野喜三郎氏

勤務先

株式会社 丸菱商会
専務取締役

TEL(23)3183

住所
現住所

長崎市小曾根町5の16
同右

久保征幸氏



勤務先
住所
現住所

有限会社 久保健材店
代表取締役
長崎市飽の浦町1の54
長崎市秋月町295の16

TEL(62)0024
TEL(61)8853

野村和夫氏



勤務先

カネマツ緑化建設株式会社
代表取締役

住所
現住所

長崎市出島町10の15
長崎市魚の町1の23の504
TEL(26)2420

原口貞敏氏



勤務先
現住所

自営業(ユーシンプラ販)
福岡県春日市桜ヶ丘5の26

武末コープ303号
TEL 092(573)3421

三浦勝太氏

勤務先

株式会社 昭和基礎
代表取締役

TEL(21)4510
TEL(21)0558

住所
現住所

長崎市炉柏町25
長崎市田手原町499の3

山下新太郎氏



勤務先
住所
現住所

喜々津カントリーコミュニティ
理事長
西彼杵郡市布
長崎市上町6-16

TEL(24)2222
TEL(09574)(3)0223

長崎青年協会沿革

年 度	会 長	会 員	事 業	内 容
初 年 度 (四四年)	小野喜三郎	二十二名	長崎国体参加の次期国体開催県岩手県役員団に乗用車四台を無料提供、会員の運転にて県内会場を案内する。(地元岩手新聞にて報道される)。	
二 年 度 (四五年)	三浦 勝太	四十八名	ソ連ボリショイサーカス来崎、明星園、マリア園、浦上学園の子供達を送迎バスにて無料招待。	
三 年 度 (四六年)	永島 正道	五十五名	世界的ギタリスト、イエペスのチャリティ演奏会主催。	
四 年 度 (四七年)	久保 征幸	二十八名	「愛の募金」活動に参加し、十回目のアーケード街頭募金を行ない十一万円余を寄金。	
五 年 度 (四八年)	池本 敏典	三十一名	今年度より「文化財を守ろう」運動を展開。	
六 年 度 (四九年)	金子原二郎	五十名	「高島秋帆」「西川如見」「薬師寺」「後藤」を清掃。墓地由来の説明案内板を寄贈。	
七 年 度 (五十年)	平野 晴一	五十四名	明星園の子供達、五十名を稻佐山、ハタ揚げ大会に招待。	
八 年 度 (五一 年) <small>後</small>	高野 一広	五十四名	昨年度よりの文化財清掃奉仕活動を継続。	
九 年 度 (五二 年)	宮路 文玄	五十四名	長崎敬老観劇会(東千代之助一座)主催、市内の老人、七、二〇〇名を市公会堂にて送迎バスにて無料招待(二日間)日見やすらぎ荘にてもちつき大会。文化財清掃活動、従来の四ヶ所に新しく「向井吉来家」を加える。	
十 年 度 (五三 年)	三浦 勝太	七十五名	今年より新たに「深堀家」「一ノ瀬家」「青銅の塔」が加わる。計八ヶ所。	
事務局設置	文化財清掃継続(11/3)	老人ホームにてもちつき大会	長崎市出身のギタリスト、山口修リサイタル主催。	
プロ野球オープン戦並、野球教室に市内小中学生を無料招待(長崎新聞に報道される)	明星学園へ、スポーツ用品寄贈。敬老の日に老人ホーム、及び独居老人にタオル四千本寄贈。文化財清掃を継続、新たに「茂木道無縁塔」。	老人ホームにあんま器三台寄贈。文化財清掃に「高木家」が加わる。	開成学園にてもちつき大会 子供達とソフトボール大会。	
十周年チャリティーゴルフ開催、収益金五万二千円を寄贈。	市内老人ホームにあんま器三台寄贈(長崎新聞報道)	開成学園へ、スマートフォン寄贈。		

十一年度（五四年）	川添 吾郎	五十四名	四月一日	長崎市市制九十周年出席（感謝状・記念品）
十二年度（五五年）	浜崎 昭	八十六名	六月十六日	協会広報紙発行開始
十三年度（五六六年）	井川憲太郎	七十七名	十一月三日	四海樓にてチャリティーダンスパーティー（約五〇〇名参加）
十四年度（五七年）	金子 順司	八十五名	十一月三十日	市民大清掃（雨のため中止）
十五年度（五八年）	勝本 博文	七十九名	十二月九日	文化財清掃「高島秋帆旧宅・植樹五十本」
			十二月二十四日	もちつき大会（女ノ都山荘）
			一月三日	市民大清掃
			一月三十日	文化財清掃（高木家・官梅家・唐僧墓地）
			二月七日	“みんなで築こうきれいな長崎”
			二月十六日	市内三三九自治会へ七六〇個のごみ籠を無料配布（長崎新聞報道）
			三月十日	もちつき大会（女ノ都山荘）
			三月二十三日	長崎青年協会ゴルフコンペ開催（長崎国際）
			四月十六日	第一回少年野球教室開催
			五月七・八日	市民大清掃
			五月二十三日	“みんなで盛り上げよう長崎くんち”
			六月六日	インド・グレート・K・ラール大魔術団チャリティーショウ主催
			六月十六日	市内の老人福祉施設の児童千五百名招待
			七月三日	文化財清掃（官梅家・高木家・青銅塔・一ノ瀬無縁塔）
			七月五日	第二回少年野球教室開催
			七月十二日	環境週間の一環としてアキ缶キャンペーンに参加
			七月二十日	（小江木材団地内埋立地）
			八月一日	文化財清掃（高島秋帆旧宅・記念植樹）
			八月三日	もちつき大会（女ノ都山荘）
			八月五日	長崎平和推進協会設立総会に参加（賛助団体）
			八月十二日	北方領土返還要求長崎県民会議に参加
			八月二十一日	山陰水害義援金募金活動、五十二万一千円を長崎新聞社に寄託
			八月二十一日	文化財清掃（青銅塔・一ノ瀬無縁塔、高木家、本河内宝藏塔）
			十一月三日	“みんなで築こうきれいな長崎”
			十一月二十一日	市民大清掃
			十一月二十九日	市内百三十四自治会に三百五十個のごみ籠を無料配布

迎えて 聞く



第1年度
(S. 44年)
小野喜三郎氏

長崎青年協会へ提言

長崎青年協会も設立以来、満十五周年をおめでとうございます。

十五年の永きに亘り会糸余曲折御苦勞もあつたと思いますが、会の発展に尽力された会員皆様に敬意を表するものであります。

会の趣旨であります「会員の団結と相互扶助の精神に基に、自己の建設と会員の親睦を図り、もつて地域社会の発展に寄与する事を目的とする」この精神に恥ぬ様、十五周年と云う一つの意義あるフ

シに当つて、初心に返つて自覚と認識を新たに致してもらいたいと思ひます。本会は青年有志の集りであります。人生の最も大切な青

年期を本会を通して会員相互扶助、親睦を重ね自己の建設に研鑽されることは真に有意義な事と存じま

す。更に若い力を結集し外に向つても協会の精神に恥ぬ様実のある活動を進めて頂きたい。協会の今後

の御活躍に期待すると共に御発展を祈念致します。



第2年度
(S. 45年)
勝浦三

後輩諸君、青年協会設立15周年おめでとう。

う。まさに感無量のものがあります。思えば15年前、当時の飲み仲間遊び仲間から、

青年団体設立の発案がなされ、仲間の賛同を得て企画設立されたのが、長崎青年協会でした。私も今年卒業し、OBとなるまで会員として、協会活動の推進に努めてまいりました。当時26才だった私も現在二児の父親となり、15年間の時間の長さをつくづく感じます。

15年間、本当に色々な事がありました。「新しい友との出会い」

「友情」「自己の向上」「挫折感」「満足感」「知識の吸収体験」等……。ローカルな青年集団組織が、15年間停滞する事なく活動を続けた事は、大きな評価を受けるだろう。私も今後は、OBの人として後輩諸君の活動を見守つていくつもりです。

後輩諸君、15周年を節目として、何事にも情熱を燃やし、常に挑戦者の気持ちで、対話の精神を忘れる事なく勇往邁進して戴きたい。

我が愛する青年協会が停滞する事なく前進あらん事を望む。

長代会歴年周年を15

情熱、挑戦、対話

長崎青年協会の皆さん、創立十五周年誠におめでとうございます。

協会の設立に携わった一人として心からお喜びを申し上げるとともに、十五年の永きに亘つて協会の発展に努力された会員の皆さんに心から敬意を表する次第です。

私と青年協会とのお付き合いは、わずか四年程でしたが、様々な出来事が今でも鮮明に残っています。とくに、初年度の長崎国体への協力活動。次年度の長崎開港四百年祭に協賛してのパーティ。三年後のナルシソ・イエペス演奏会の開催などは、今も忘れることが出来ません。

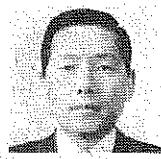
当時の青年協会は、何事にも体ごとぶつかっていく素晴らしい力がありました。

その力は、青年協会のモットーである、情熱・挑戦・対話の精神を会員一人一人が自分のものとし、常に情熱をもやし、常に挑戦し常に話し合つたことから生みだされたのだと確信しています。

私が長崎を離れて、もう十二年の歳月が流れました。大分・神戸と居所を変わり、長崎との距離も遠くなり、皆さんとのお付き合いも出来にくくなりましたが、あの当時、青年協会で学んだ情熱・挑戦・対話の精神は、今も私の中に生きづけています。青年協会の皆さんも、この素晴らしい精神のもと、郷土長崎の発展のために今後も大活躍されることを期待しています。

頑張つてください!!

第3年度
(S. 46年) 永島正道氏



第4年度
(S. 47年) 久保幸征氏

頑張つてください!!

第4年度
(S. 47年) 久保幸征氏

頑張つてください!!

十五年前、当時二十三～二十四才の若者、小野喜三郎（株丸菱商會専務）ウォーカー・デニス（フェアチャイルド新工場責任者）原口貞敏（福岡在住自営）野村和夫（カネマツ緑化建設社長）三浦勝太（株昭和基礎社長）山下新太郎（喜々津カントリークラブ理事長）それに私を加えた七人のメンバーが、毎夜銅座にて酒麻雀と遊びに明けくれ若さのエネルギーを発散しているうちに、このままではこれから時代を背負つて立つ青年として恥かしい、駄目な人間になつてしまふと、いつしか語り合うようになり、将来リーダーシップをとれる人間になる為、地域社会に貢献できる人間に成長する為、勉強会的な親睦会を作ろうと語り合つたのが青年協会の発端であります。

財界組織の資金援助など全くなく、細々と小遣いを出し合い、数回の発起人会を開き、会の名称を「長崎青年協会」として、協会憲章のもとに二十名の会員でスタート致しました。15年のうちには幾多の曲折、会の危機もありましたが、数多くの活動、事業を通して会員個々の自主的な参加に支えられ、議論し、汗を流し、涙を流しこれらるるまで成長した。青年協会に対し、私自身誇りに思い又、責任感を感じるものであります。

現在は不況の時代、激動の時代、混沌の時代といわれ、先々不安を感じさせる今日この頃ですが、昔、戦争を経験された方々の食糧不足又、毎日が生命の危機にさらされていた時代に較べると、今日の厳しさは、問題外だと思います。私達は、現在の荒波を乗りきる為にも今一度、先輩が汗と涙で築いた長崎青年協会の十五年の歴史と伝統の重みを感じながら、創始の精神に返り、会員個々の企業基盤の安定、確立を図りながら、協会の名を発展させるべく一矢を尽す所存です。

協会時代の思い出はつきなく、会長時代



第5年度
(Saito Minchirō)
48年)

を振り返ると五年目という節目を意識し内
部機構の改革、充実に取り組みました。

ただ、当時は会員数三十名と小集団でしたから以心伝心でスムーズ
に行く事が多かつたのです。その後会員数の増加、対外活動の積極
化をみると感激を覚えると同時に運営の困難さを感じます。

さて青年協会には年令、仕事、生活環境等全てが異なる様々な方
がおられます。入会以前は見ず知らずの者であったのです。それが
協会活動を通じて互いを理解し合い協力し合い友情にまで発展して
いるのです。ここで遊び学んだ事の意義は大きく、今では私自身の
生活信条の一つとなつてゐるものがあります。それは人々の出会い
の中でも自己研鑽ができ且、友情を得る事が出来るという事です。

協会の皆様、私が経験した、このすばらしい出来事の為にも是非
積極的に協会活動に参加して下さい。機会があれば、皆様と一緒に
なつて、フリートーキングなど、是非したいものだと思います。

十五周年を迎えて
私の会長時代の思い出

会長時代の私の思い出は、市内のおとし
より七千名を、無料招待した東千代之介観
劇会の事が、一番印象強く残っています。
大きな事業でしたからそれこそ五十名近
い会員が一丸となり、必死に活動した結果成功する事が出来たので
す。その結果、会員の団結力強化、対外的アピール、みんなで、熱
中しあつた結果の喜びを得る事ができたように思います。
又、その後の委員会制とする組織化もスムーズにいったようです。
親しい友を得たものこの時期です。

(裏話ですが東千代之介氏は、学校の先輩でもありましたから、ギ
ヤラを度外視して協力していただきました)

さて、学校を卒業するとなかなか親睦かつ結束できる機会が少な
いわけですが、まさに協会はそういう意味も含んでおりまますし、大
変すばらしいものを持つてゐると思います。

これに今ひとつ、私自身「親しきなかにも礼儀有り」という礼節
を更にわきまえたうえに結束し、お互い助け合う様な、又協力し合
う様な、仲間意識を持った会にすることが大切ではないかと感じま
す。

また、こういう時期ですから常に大きな事業を計画、実行とはい
かないと思いますが、会員の研修などを中心に行ない、対外的なア
ピールは五年に一回とか、十年に一回とかでも良いのではないでし
ょか。

私の親しい友人というのは二年三年先輩が多いのですが、意識し
てそういう人達とのつきあいを良くやつていかないといけないので
はないでしょうか。先輩は後輩に、また次の後輩にという具合に、
良い点など語り継ぎながら、青年協会の蓄積して来たものを大切に
して、新しい経験も積み重ねつつ、協会独自のものをつくりあげて
行きましょう。

青年協会十五周年おめでとうございます。私の人生と青年協会とは、十四年間の深く暖かい年月を感じます。

設立入会当時は、二十五、六才の独身男性が集まり、協会の事業として初めて手がけた「長崎国体」の裏方仕事（内容は「協会の沿革」で皆様御存じでしょうから省略します）からスタートしました。次期国体開催県の岩手県の役員の方々に本当に心から感謝された時の喜びは参加した者が味わえる大きな自信になつて戻つて来た様に思います。

十四年間を回想しますと、色々な出来事が走馬燈のごとく私の脳裏の中を駆けめぐっています。S四九年協会最初のもちつき大会を目見やすらぎ庄で行つた時は、私の亡き母も参加してくれました。

協会活動の価値感を見聞理解して貰い、次年度会長を受ける私は、家庭の良き理解の基に一年間会長を務める事が出来ました。又両親（S46父を、S50母を）亡くした時、会員の皆様から暖かい励ましと、葬式から精霊船迄本当に御世話になりました。協会員と私の思い出多い中で生涯忘れ得ぬ思い出の一つであります。

過去の事はさておき、やはり今後の青年協会に思いが走りますので書いてみます。第一に二十周年に向つてスタートする今日、強力なりーダー（リーダーシップ）が求められている時であると思う。リーダーシップに共通する点は集団をまとめて、その力をひとつの方に向結集していく事合意を求めたり調整をする努力だけでは片がつかない。トップの決断や意志の力がものを言う。「ノー」と言うべき時には、周囲の反対を押し切つても「ノー」と云える発言力が求められているのではないだろうか。第二は会員の会員たる目的意識、自主的な団体であるが故に、自己啓発と自己開発を促し会員一人一人が積極的に協会活動に取り組む心構え、例会、事業に自らの意志で参加するうちに会員が協会に愛着を感じるようになる。それが今後の長崎青年協会が大きく飛躍発展する為の理念ではないでしょうか。



第7年度
(S. 50年)
平野一氏

青年協会十五周年を迎えての期待

十五周年を迎えての期待

まずは長崎青年協会が十五周年を迎えたことを、心からお喜び申し上げます。私にとつて協会は、自分達のトレーニングの為の場所でもありました。事業にしても、我々は他人に奉仕をすることはもちろんだが、事業を通して自分本人を磨くことにあり、自己の研鑽、試練の場として見て來ました。墓掃除にしても同じ場所ばかりでは意味がなく、新しい文化財を掘り起こして行く処に目的があると思う。労働奉仕というのではなく、青年協会の位置づけと、地域社会へ意識づけをして、引き継いで行くのもよい方法だろう。

青年協会も百名近くなると大変だろうが、自己開発、研修の場としていつまでも若々しくあつてほしい。会社みたいに束縛はないけれどもそれだけに責任感をもつていただきたい。会員全体の資質のレベルアップの為には、まず理事の研修を行い、委員会での指示、運営等が責任もつて行えるようにするべきだ。各会員が意識するようになるまでは委員長の努力が必要で、個人訪問をすれば会員の意識開発が必ずできるし、恐縮して参加するようにもなる。参加をし、活動することによって、お互いが喜怒哀楽を味わえる。それを意識するようにならないといけないが、なにごともきっかけが必要である。私も三分間スピーチできつかけを覚えた。現会長の勝本氏も、一時は退める話も出たが、もう一年在籍したことによって今日の会長の役をおおせつかるまでになつたが、誰でも一度はそういう気持ちも経験しているはずだ。それを通り越せばすばらしさがわかる。

理事、会長は全員が一度は経験してみたらどうか。まちがいなく自己の建設にはプラスになるし、飛躍できるはずだ。社団法人化は、社会的位置づけにも大変レベルアップできるし、OBとしても胸が張れる。地域社会の一員として頑張れ!!



第8年後期第9年
(S. 51年)
宮路玄丈

長崎青年協会に想う事



第11年度
54年 吾郎
(S. 添川)

長崎青年協会も設立後十五年となり、益々その活動を一協会員として、又会長経験者として希望しておる次第であります。

昨年、昨年とチャーチメンバのほとんどが卒業され、協会としては変動期を迎えていると云つても過言ではないと思います。

又今迄は、毎年毎年、平均年令が上昇していた状況から、そう変化しなくなるものと思います。今迄の活動は若さをむき出しにして、活動や、協会内の組織等運営がなされ、何事にも新鮮さがあつたと思ひます。設立後十五年も経過すると、活動もマンネリ化し、今迄の事を踏襲し、例会等に於いても惰性で運営されておるんではなかと思考します。これはあくまでも批判ではなくて、こう云う任意の団体におけるサイクルであり、どこの団体にでも有り得る事態ではないかと思います。今後の協会に期待する事は、決して過去の事にとらわれなくともいいから、年度年度の特色を生かし、決断を持ち、運営や活動をして行く事が大事であり、新事業を行う為には、今迄の事業の切り捨であつたとしても、止むを得ない事であると思ひます。しかし、奇抜さ、品の悪さは青年協会には必要ではありません。例会に於いても儀式であり、それなりの形式は踏まえて行かねばならないと考えます。しかしながら青年協会にとって、必要不可決な事は、会員としての自覚であり、責任と義務を果たす事が協会活動が成り立つ第一の要因であると云う事を、もう一度心を新たにして考えなければ青年協会のこれから発展はあり得ないし、存続までも問われるものと思います。何はともあれ、先輩達が残してくれた足跡だけは消す事なく、会員一同これからも青年協会の為、心を一つにして頑張って行きたいと思ひます。小生もあと三年、出来る限りの協力をじ、協会員の自覚を持つて、これからも活動や、仕事に励んで行きたいと思ひます。

十五周年を迎えるにあたり



第12年度
55年 昭

青年協会発足十五周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。過去、十年余

協会活動と共にして來た卒業生の一人として、抜きで建前だけでなく本音の討論に何時間も、いや時には何日も費

やし、マニアルやタイムスケジュールを作り、一つの目的の為に全員一丸となつて活動したあの青年としての情熱と行動、そして目的を達成した時の充実感、これは若者にしか得られないものだと思います。

協会活動が始まつた一九六〇年代から一九七〇年代は物質の時代と云われ、世の中は高度成長を続けて来ました。

それからオイルショック等による低成長時代に入り、十五周年を迎えた現在、一九八〇年代は心の時代と云われています。物質だけを求めて来た結果、今こそ心が必要な時代だと云う事だと思います。

最近は皆様ご承知の通り、國の内外を問わず難しい問題を抱えています。例えば、ロッキード裁判の問題とか、あるいは大韓航空機の問題、イラン、イラク戦争による石油の問題等々……。

この様な時代こそ青年達が團結して、素晴らしい遺産を次の世代へと引き継ぐ為に、努力するべきだと思います。協会の会員諸君にはそれができると思います。

過去、協会活動に於いて、親子の断絶を云われていた時代に、「老人と青年の対話」と称し、敬老観劇会を催したり、あるいは、観光都市長崎をゴミのないきれいな街にしよう云うので「みんなで樂こう、きれいな長崎」をテーマにゴミ籠設置の運動を起し、世論に問い合わせ、又行政に対してもゴミ処理に関して訴えました。この様に我々の周囲の身近な問題と着実に取り組み、努力して行く事が明日の長崎発展の為に少しでも役立つのではないでしょうか。協会と会員諸兄の今後益々の御活躍と御発展を期待してやみません。



第13年度
(S. 56年) 氏
井川憲太郎

十三年度は、大半のチャーチメンバーガ卒業を間近に控えられた年であり、方々が大きく動ける最後の機会ではなかろうかと、年当初より考えておりました。

有難いことに先輩方も「協会の対外的アピールになり、且、今後の活動に専らかかる活力になるものを残したい」との希望を持たれておられました。

理事会で論議の末、実施時期からも「長崎くんち」的にが絞られました。又この事は常々協会の指標でもある、地域社会との接点を持った活動という事に合致するものがありました。伝統ある「長崎くんち」は踊り町とそれを取り巻く諸団体そして一般市民の協力が不可欠の行事であります。そこでタイトルも「みんなで盛り上げよう長崎くんち」と決定したのです。

我々の郷愁は残るあのサトガス小屋を長崎っ子に!!と市民会館にインド大魔術団を呼び、会員総力を結集してこの事業は成功を納めました。いまさらながら、献身的な協力をしていた諸先輩、及び会員の方々に深く感謝したいと思います。

さて十五年目は節目の年であり、再出発の意味を含めてもよい年であると考えます。社団法人資格取得も予定されており、こうなつてきますとより地域社会活動、会員のレベルアップを意識する必要があると思います。

協会には文化財保護を目的として、十年以上も継続されているすばらしい事業もあります。このような長期的ビジョンを持つた事業の計画、実行、継続、プロローがより重要です。

閉鎖的でない団体にてこの様な事業を通じ、親睦の域を越えた、

地域社会の活性化に果せる役割意識を認識

しながら体験、学習し、やがて来る二十一世紀に向かって、地についた青年活動をやつて行きたいものであると念じておる次第です。



第14年度
(S. 57年) 氏
金子卓

十三年度は、大半のチャーチメンバーガ卒業を間近に控えられた年であり、方々が大きく動ける最後の機会ではなかろうかと、年当初より考えておりました。

有難いことに先輩方も「協会の対外的アピールになり、且、今後の活動に専らかかる活力になるものを残したい」との希望を持たれておられました。

理事会で論議の末、実施時期からも「長崎くんち」的にが絞られました。又この事は常々協会の指標でもある、地域社会との接点を持った活動という事に合致するものがありました。伝統ある「長崎くんち」は踊り町とそれを取り巻く諸団体そして一般市民の協力が不可欠の行事であります。そこでタイトルも「みんなで盛り上げよう長崎くんち」と決定したのです。

我々の郷愁は残るあのサトガス小屋を長崎っ子に!!と市民会館にインド大魔術団を呼び、会員総力を結集してこの事業は成功を納めました。いまさらながら、献身的な協力をしていた諸先輩、及び会員の方々に深く感謝したいと思います。

さて十五年目は節目の年であり、再出発の意味を含めてもよい年であると考えます。社団法人資格取得も予定されており、こうなつてきますとより地域社会活動、会員のレベルアップを意識する必要があると思います。

協会には文化財保護を目的として、十年以上も継続しているすばらしい事業もあります。このような長期的ビジョンを持つた事業の計画、実行、継続、プロローがより重要です。

閉鎖的でない団体にてこの様な事業を通じ、親睦の域を越えた、

地域社会の活性化に果せる役割意識を認識

ながら体験、学習し、やがて来る二十一世紀に向かって、地についた青年活動をやつて行きたいものであると念じておる次第です。

十五周年を迎えての感想

水の流れにたとえれば、山深い、水の源から下流に行くにしたがつて、大きく幅広く、水量も多くなり、流れにそつて回りの風景が変つてくる。云うなれば、海にまでは出てはいなのが、かなり大きな河の流れになつて來た。現在に至るまでこのよだな姿は予想してなかつただろう。現在の姿の希望はあつたが予測はしてなかつた。

退会した者も含め、仲間意識の中で強い連帯感できずかれたものだと思う。大勢の仲間が集まり、機会あるたびに憲章の中にある、目的意識をもつて活動してきた。なかでも当初の墓掃除、文化財の掘り起しの中で自己の建設に実践を通して影響大であった。

仲間を知る、文化財を知る、等々人生の出会いに、人、物、講師先輩、色々な出会いがあり、なにごとも知ることが青年協会の存在価値があつた。

課題というか、反省については一つにこの機会に、今までの十五年間の総括の反省をし、振り返り、全員でやることだ。なぜかといふと、過去を振り返ることが、将来の道を見い出すことになる。なにごとも原点に戻り、ゼロからスタートし総括に眺めて行きたいものだ。継続事業の必要性があるかないかは、時代とともに変化していくべきものだし、継続するならその根拠、理由づけが必要であると思うし、整理してみると肝要だ。郷土の再発見からスタートしたことも目的があつたが、最近関心が薄れてきている。例会時等に郷土に関する講師の選択も一つの方法だろう。長崎は歴史の町だけにその必要性を特に感じる。二十一世紀に向け、出島の再来を切望する。足元を照し見る時期にも来ていい。物事が表面的に上すべり傾向が見られる、とくに調査不足、基礎的なものをつかまず進めている部分もあり、結果は何も残らず、疲労だけが残つたということのないよう戒めの言葉としたい。

地域社会に貢献する

長崎青年協会

加入諸団体名

加入年度

団体名

昭和五十三年 長崎県明るい社会づくり運動推進協議会 理事

昭和五十六年 N・H・K長崎県視聴者会議委員

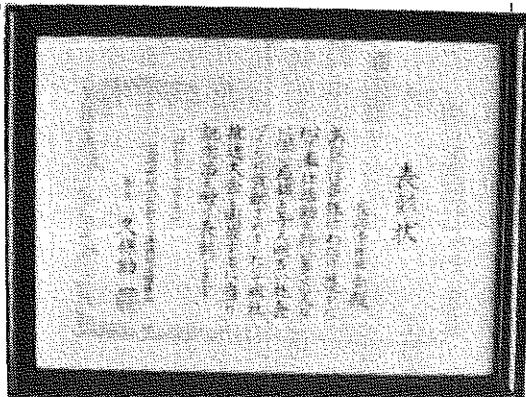
昭和五十七年 北方領土返要求

長崎県民会議 理事
昭和五十八年 長崎平和推進協会賛助団体

感謝状・表彰状紹介



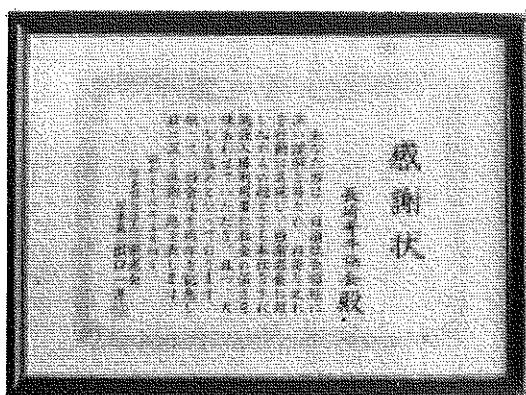
昭和44年11月11日
第24回国民体育大会感謝状



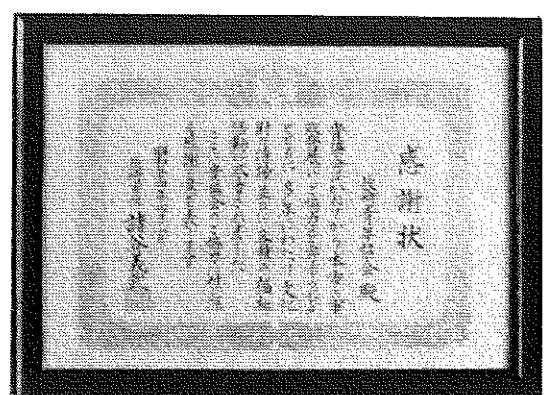
昭和53年12月11日
明社推進奉仕活動表彰状



昭和52年2月5日
肢体不自由児（者）福祉感謝状

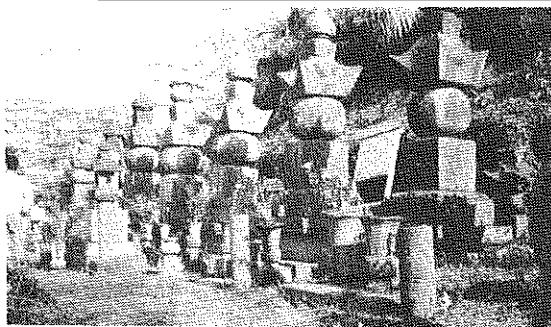


昭和58年5月4日
老人ホームからの感謝状



昭和54年4月1日
文化財清掃・福祉活動感謝状

昭和58年度活動報告



11月3日
文化財清掃
(高木家墓地)



3月5日
北方領土返還要求長崎県民会議
(中央橋)



11月20日
みんなで築こう きれいな長崎
(市内公園)



7月31日
山陰水害義援金募金活動
(浜町)



12月4日
もちつき大会
(女ノ都山荘)



8月21日
市民大清掃
(県庁通り)

十五周年記念座談会

「長崎青年協会を考える」



日時 昭和58年10月10日 17時～19時

場所 長崎グランドホテル

出席者名

会長	勝本博文
副会長（会員担当）	江村大洋
O・B	浜崎昭
次年度会長	太田勝良
監事	金子卓司
例会委員会	森山茂
新人会員	馬場正勝
広報委員会	小松清彦
司会者	杉尾豊明
宮崎本知	木下博行
松本豊	尾幸明
松尾豊	木下幸明

司会 本日は大変お忙しい中を
又、貴重な時間をさいて頂きまし
て有難く御礼申し上げます。

本日お集り頂きましたのは、青年
協会が十五周年目を迎えて、
特別記念号を発行することになり、その中に
「青年協会を考える」というテーマで、会長、
副会長、先輩それに現会員数名で座談会を開
き、その内容を掲載する目的でお集りいただ
きました。今後の青年協会が歩むべき道に対
して、参考になる意見を御発言頂き一つの印
台にしてほしいと思います。

早速ではございますが、O・Bの浜崎先輩にお
言葉をいただきたいと存じます。



浜崎 十五年間青年協会がある
のは、その年々の会長はじめ、理
事の方々が一生懸命活動された結
果であると思う。それだけに理事
の指導力が要求されるし、組織と
しての団体活動がどうあるべきか等、常に話
い合い、マニアルをつくり、タイムスケジュ
ールを組み、基本的な組織をつくり活動する
その中でチームワークと、リーダーとしての
資格を身につけていく、これが青年協会の中
での自己の建設になるだろうし、今後も不可
欠であろう。



司会 今年広報委員長をさせて頂き、その
点の大変さが分かり、又勉強にもなりました。

司会 委員会活動は如何にあるべきですか、
江村君、金子君、太田君に御意見願います。

ましたが、その時の背景をお聞きしたい。

司会 新人の馬場君、小松君は講師講演を行ふに受け止めておられますか。

江村 十年在籍中、五回、しか

も四年間連続理事をやりましたが、委員会のメンバーをリードしていくのは大変だ。まずは協力を得ないといけないし、例会、事業となるで大きな活動だと思うし基礎であります。

浜崎 一番苦労したのは管理の問題でした。

勝本 まずは現状の事業に徹底努力するのが先で、全員団結心を持てばすばらしい結果が出てくる。いずれにせよ市民にアピールすることが青年協会の歩む道だ。

馬場 例会に行けば必ずいい話が聞けるという楽しみがあります。現在会社を設立して三年半なりますが、経営者としての立場の経験談が聞ければ大変ありがたいです。

江村 六年在籍中、五回、しか

も四年間連続理事をやりましたが、委員会のメンバーをリードしていくのは大変だ。まずは協力を得ないといけないし、例会、事業となるで大きな活動だと思うし基礎であります。

金子 委員会活動は執行部が苦労するネックの一つだ。委員長の指導力が大きく求められる。委員会の活性化を図り、連絡事項は末端まで、又逆に会員の意見を充分に聞き、大事なことはすい上げてやることだ。

太田 委員会組織は四十九年度

六年目の金子原二郎会長が初めて行ったが、当然会員数が増えた為必要性があつたと思うが、現在の委員会活動を見ていると、独立採算的だ。いろんなカラーを出しながら、各委員会をまとめていくのも委員会活動の一つだ。

司会 次に事業の在り方について、今後の方針を勝本君、浜崎先輩に御意見賜りたいと在じます。浜崎先輩は五十五年度会長をなされた時「みんなで築こうきれいな長崎」というテーマで、市内自治会にごみ籠を配布され

浜崎 一一番苦労したのは管理の問題でした。最終的には自治会に管理していただくことになり、七百六十個のごみ籠を配布できました。この時こそ会員の努力が認められ、市民に対しアピールできだし、地域社会を巻き込んで活動したことはなかつたと思う。

小松 一般常識が私自身ないと思つてますから、どのジャンルでもいいから講師の話を聞きたい。

江村 君、太田君二人の話を聞かれて御意見ないですか。

森山 そうですね、講師の選定が思つたより難しかつた。講師のスケジュール、講演時間等々、とにかく方法としては、年間の統一

浜崎 ところでお伺いしますが、将来の例会の在り方はいかがなもんでしょう。講師の選定に御苦労なさつておられるようですが……。

江村 馬場君、小松君、今の気持はいつも江村君、太田君二人の話を聞かれて御意見ないですか。

太田 例会は一つの呼称であり、青年協会の例会というのは自分のトレーニングの場所だと思います。講師の話を聞く、食事のメニューなど思います。講師の話を聞く、食事の時に知らないメンバーと懇談、いろんな世間話ができ、三分間スピーチは、もちろんのこと自己的建設の場であることを認識してほしい。

司会 次に事業の在り方について、今後の方針を勝本君、浜崎先輩に御意見賜りたいと在じます。浜崎先輩は五十五年度会長をなされた時「みんなで築こうきれいな長崎」というテーマで、市内自治会にごみ籠を配布され

浜崎 一一番苦労したのは管理の問題でした。最終的には自治会に管理していただくことになり、七百六十個のごみ籠を配布できました。この時こそ会員の努力が認められ、市民に対しアピールできだし、地域社会を巻き込んで活動したことはなかつたと思う。

小松 一般常識が私自身ないと思つてますから、どのジャンルでもいいから講師の話を聞きたい。

江村 君、太田君二人の話を聞かれて御意見ないですか。

馬場 例会に行けば必ずいい話が聞けるという楽しみがあります。現在会社を設立して三年半なりますが、経営者としての立場の経験談が聞ければ大変ありがたいです。

司会 では研修について金子君御意見をお聞かせ願えませんか。全体研修、新人研修含めてアドバイスいただきたい。

金子 研修は青年協会の中でも大事な項目の一つです。担当される委員会のアレンジ次第で充実するかいなかきまる。今までの全体としては力不足だったことはいなめない。

研修では青年協会の総括した話しができるし、今後の展望という未来に向つた積極的な又、建設的な話しもできる。安易に取り組まないよう、認識を改める必要があり、終了後には満足感を得られなければならぬと思う。

司会 馬場君、全体研修を受けた感想を。

馬場 研修と云うからには何か厳しくしごかれることを予想してたが、講師の話し、食事、個別の会合、お酒が入った座談会、何んとなく最後は尻りつぼみの感じでした。

江村 研修委員会は組織ができてから六年目とまだ歴史が浅い委員会です。あくまでも研修委員会ははじめな勉強をしてみようと云うどちら方が一番いいと思う。

太田 新人研修は新人会員に協会自体の歴史なり、苦労話しなりして、協会の内容を理解してもらう為の研修会、全体研修は協会活動の心構えと、地域社会への寄与する方法を。

司会 財務委員会の問題だけではなく、会員全体の資質の問題だ。協会運営は全て会費でまかなわれており、未納は運営に重大な財政的問題が起ころり得ます。モラールの問題だ。毎年十一月までは悪く、忘年会時期にはどういう訳か大半が納入される。これが毎年繰り返えされている。財務委員会は正に年末多忙で師走です。

江村 社団法人にでもなればそれこそ悪い体質を改ためなければならない。これまでのやり方では全て問題が起ころると思います。

司会 社団法人の話しがでましたが、ここで社団法人化について御意見を浜崎先輩に伺いたいのですが、特に会員に何を望むのか。

江村 今、その点の見直しをやつてます。又、入会時の選別、研修等において改善できると思う。又、会員として相応しくない者は退会勧告を出し注意して行きたい。

司会 森山君、会員交流に対するアドバイスはないですか。

浜崎 長年の懸案事項で、来年から可能と云うことは素晴らしい事だ。青年協会十五年の歴史の中で大きな転換期となつた様だ。

江村 社団法人になつたから全てが變る事はありません。今迄のつちかつたものに更に自覚を持つた勉強意欲があればと思う。与えられた責任を全うし、理事事を率先して経験すべきだ。

森山 新入会員は例会後の懇親会には必ず出席すべきで、紹介者は責任を持って同席し名刺交換ができる有意義だ。早くメンバーに慣れ、一日も早く解け込む事だと思います。

司会 この社団法人化については臨時総会にて、総務の吉野君が詳しく発表され、それを十月の広報紙に掲載してありますので、御一読下さい。十五周年目と云う節目に来て、社団法人化を決議された事は高く評価いたします。それでは続きまして、会員交流であります。担当副会長の江村君いかがですか。

江村 会員交流は若干派手なところがある反面、会員開発は非常に地味な仕事であります。会員開発の場合は会員のレベルアップを図ることが第一でしよう。ただし会員の資質の問題は当然あります。

司会 交流委員会の小松君、例会後の懇親会についてどうお考えですか。

小松 自分の性格にも合つております。懇親会にはいつも参加しております。今年の新人は七名で、最初名刺交換で会員の方との接触をりました。新人は最初は苦労すると思いますが、回を重ねる毎に皆様との接触が出来てくると思います。先は参加する事だと思います。先は参加する事だと想います。

司会 今、小松君が云われた様に、先は参加する事から出発する事だと思います。

太田 懇親会は会員交流委員会の担当ですが、場所の選定に苦労しており、また金額面、人数、時間等、参加者が少ないと困ります。

司会 なるほど、会場の選定と参加者の人數によつて御苦労されてる訳ですね。

勝本 私の場合は入会当初はあまり性格を表に出せず、先輩の中に入つて行けませんでした。やはり自らが積極的に参加する気持がないとダメです。私自身青年協会に入つて随分いい意味で性格的に變つたと思つてます。

司会 その点、浜崎先輩、会員交流委員会を眺めていかがでしようか。

浜崎 やはり一番大切な事は参加する事だ

と思います。ある面から見れば遊びの様に見えますが、協会内部の基本的な事だと思います。そう云うきっかけがないと本音の話しが出来ないのですか。先程の小松君の様に互いに声をかけ、遠慮せずに頑張つて行こうと云う気持は大事だと思います。

積極的な方、消極的な方と色々あると思いますが、今の青年協会は自分達の意識の基に行動される中で一部には迷つている方もおられると思います。基本的には自主的に参加する必要があると思います。

司会 次に皆様の中で私共、広報委員会に何かアドバイスがありましたら。

金子 今年度の広報紙は例年になく見事に出来上がつてゐると思います。色々苦労され工夫された跡が紙面に出て感心しております。一つ一つそう云う様に積極的に行動する事は大事な事だと思います。又例年問題になるのは広紙誌が協会内部のものか、それとも対外的に出す広報誌か、と云う事に今後の課題の一つにもなると思います。

司会 まだまだ知恵を出せばあるんでしょうけど、今後勉強して行きたいと考えています。

金子 予算の関係もあるでしようけど、写真の掲載があると見やすくなるし、又親しみも覚えます。活字だけではどうもね。

司会 今回の記念特別号は写真を多く取り入れて、目で見る特別号と云う雰囲気を創りたいと思つています。

江村 每月の広報紙について云えれば予算の問題あり、発行期日の制限等、広報誌を担当する方は大変だと思います。

司会 最近云える事は、広報誌を発行する一方、仕事も非常に大事にする様になり、結果、すばらしい経験をし、何事も真剣に取り組めば出来ると云う気がしております。

江村 協会活動に燃えている時は、仕事にも燃えているのではないでしようか。

勝本 それは確かに云えると思います。他の委員長とも積極的に意見交換をして頂きました。又広報委員長として次年度の委員会にも色々とアドバイスして頂きたいと思います。

司会 今後、若い方々が青年協会を担つて頂く為に、原点に返つて頂き、組織の維持機能のみならず、広い視野での判断力を持ち、自己の研鑽に努力され、会員の団結と相互扶助の精神の基に頑張つて頂きたいと思います。本日は御多忙の中誠にありがとうございます。本日の座談会は特別記念号にそのまま掲載し、青年協会の歴史に残るものにしたいと考えております。

長崎青年協会歴代会長・OB・役員・会員名簿

O · B		年 度 S																
		15	14	13	12	11	10	%	8	7	6	5	4	3	2	1		
		58	57	56	55	54	53	% ₁	51	50	49	48	47	46	45	44		
椎木	鳥居	飛永	平野	浜崎	池本	野村	的野	宮路	渡部	高比良利滿	三浦	浅田	勝本	金子	井川	浜崎		
正直	記亮	一	昭敏	典和	太夫	和玄	宗一	正貴	五郎	博文	卓司	吾郎	丈玄	勝一	晴一	高野	宮路	
(株) 椎木漁業	宗教法人	京染吳服	平野屋	浜崎水產	市議會議員	カネマツ	綠化	事務機のワタナベ	長大病院放射線科	(株) 昭和基礎建設	長崎浅田事務所	後藤貨物自動車	(株)	井川ガラス店	(株) 阿蘇産業	浜崎水產	三浦	高野
旭町	炉柏町	田上町	古川町	旭町	夫婦川町	出島町	栄町	滑石町	桶屋町	坂本町	江戸町	上小島町	今博多町	五島町	大橋町	古川町	夫婦川町	久保川町
8	25	3	6	3	13	59	25	10	59	7	5	1	15	3	25	8	14	25
7	3	16																
(61)	(21)	(23)	(23)	(61)	(25)	(21)	(25)	(25)	(27)	(56)	(27)	(内40)	(21)	(23)	(78)	(25)	(61)	(10)
4	4	5	0	9	0	4	0	6	5	4	4	3	2	2	2	9	2	9
8	5	4	8	1	2	5	3	8	9	5	7	4	1	7	6	3	5	1
4	1	8	2	3	4	1	4	6	6	2	6	7	1	0	9	1	2	3
8	0	8	7	1	3	0	6	8	4	3	4	7	1	6	3	1	3	1

例会委員会		総務委員会				事務局	監事	監事	無理事	副会員	会長	会員会	委員会	
副	委	副	委	事務局	事務局									
木藤	合六	中尾	津田	太田	森山	南部栗原	松田	福田	吉野	飯島	久保	小川	椎木	勝本
俊郎	忠	信一	勝行	吾郎	寿英	茂	英成	耕一	哲規	穂積	良明	一朗	亮一	博文
(株) 富士商会	(株) 二京フレイ	ヘアサロンナカオ	倉成正	太田酒店	大正海上代理店	南北部	宝藏寺利夫	山口写真館	不動技研工業	(株) 八十産業	(有) 長崎造園	後藤貨物自動車	(株) 百武製麺	百武製麺
五島町	三京町	油屋町	樺島町	五島町	鍛治屋町	築町	宝町	桶屋町	水の浦町	竹の久保町	出島町	丸尾町	新地町	朝日石油
5	1	8	6	6	5	3	4	6	78	4	2	5	5	西油(株)
22	2	15	4	39	3	8	12	15	13	18	15	18	15	東京海上
6	6													小川損保
(24)	(50)	(22)	(21)	(73)	(22)	(25)	(22)	(45)	(44)	(26)	(23)	(25)	(23)	(21)
3	0	7	8	5	0	3	3	1	1	2	2	8	8	(61)
7	1	5	2	3	1	4	1	7	1	5	2	9	9	2
4	0	4	8	1	3	0	2	7	7	8	1	6	5	1
1	5	5	8	4	7	3	1	2	1	3	7	6	4	3

会員開発委員会					会員交流委員会					広報委員会					財務委員会							
(副委)					(副委)					(副委)					(副委)							
尾崎	西極	中村	大橋	濱口	福島	松浦	白浜	熊沢	高橋	小松	西村	黄尾	中田	劉代	馬場	杉本	松尾	岩永	徳本			
政徳	則明	善人	俊彦	康幸	誠文	寛文	悟	政悟	誠勇	清彦	真一	醒博	英徳	博昭	濟才	正勝	豊明	青太	知弘	行		
尾崎商店	(株)谷川建設	長崎ダイハツ販売	おふいすαアルファ	大通(株)	誠商事(株)	(有)白浜商会	(有)熊沢商事	(有)松浦印刷	長崎宝屋	稻垣屋	カスチラ	西村真珠	中華菜館	福寿	田代帽子店	京華園	富士ビジネスセンター(株)	グラントメール	宮崎税理士事務所	長崎マリンサービス(株)		
惠美須町 9 1	松平町 3 9 1	新野町 22 1	城山町 17 6 6	金屋町 1 17 21 ビルド	八幡町 6 6 17 5	弁天町 1 1 2 8	本河内町 620 21 14	江戸町 4 8 1	万屋町 13 5 5	大黒町 14 5	新地町 2 5	竿の浦 3 0	銅座町 5 12	新地町 9 7	桜町 7 25	江戸町 5 3	岡町 5 11	岡町 7 1	茂里町 1 17	旭町 4 11		
(23) 5 7 2 6	(48) 3 5 2 1	(46) 1 2 3 1	(27) 1 3 0 9	(61) 1 5 0 9	(23) 2 1 7 0	(23) 2 5 2 7	(61) 3 8 3 2	(22) 4 8 9 0	(22) 1 3 1 3	(22) 2 2 3 1	(21) 3 0 3 2	(78) 9 9 1 1	(22) 8 8 1 6	(22) 0 1 1 6	(21) 1 5 0 7	(62) 1 7 8 0	(25) 2 8 5 8	(23) 8 8 4 2	(45) 7 1 7 8	(44) 1 9 5 3	(62) 8 8 6 6	(45) 2 1 1 1
(57) 1 1 1 0	(21) 0 0 3	(21) 1 0 1 9	(47) 3 0 0 3	(57) 1 1 1 0	(26) 3 2 2 1	(21) 9 8 8 3	(21) 1 0 1 9	(26) 8 8 6 6	(21) 9 8 8 3	(21) 1 0 1 9	(44) 1 9 5 3	(62) 8 8 6 6	(45) 2 1 1 1	(26) 9 8 8 3	(21) 1 0 1 9	(47) 3 0 0 3	(57) 1 1 1 0					

「社団法人」化への背景

総務委員長 吉野信義



本年度の総務委員会を担当するにあたり、事業計画を立てる段階で次の様な思慮に基づいて検討を致しました。

昭和四四年に創立された当協会が、本年度で十五年目を迎えること。更に設立メンバー

並びに設立当初からのメンバーのはほとんどが卒業されたことの二点を背景として、過去十五年の歴史を保存集積し歴史を有形化する。

十五年度以降の将来に向けて、一つの指針を見い出すことを重点に検討を重ねたうえ、九項目の活動計画を設定した訳であります。

その中の一つに「社団法人化の調査並びに検討」を掲げ、社団法人化すると云うことはどう云うことなのか、どう云うメリットとデメリットがあるのか等について、調査、検討することにしたのが年当初の段階であります。

本件については五年前の昭和五三年度に一度、社団法人化に付いて行動し、県の担当窓口等の諸問題で立ち消えになつた経緯があつたものの、具体的な調査資料がなかつた為、白

紙に戻つて一から調査を始めた訳であります。

調査の過程で県の窓口である総務省事課並びに、中小企業課の指導を受けながら調査と検討を繰り返した結果、本年八月の段階で、「社団法人」についての調査を一応終え、県の中小企業課を窓口にして「社団法人」化が出来る目処が立ちこの時点で調査、検討を終了し、総務委員会としては「社団法人」取得の賛否を会員に問うべく次のステップに移りました。

先ず、理事会に数回計り勉強を重ねた後、取得の方向で理事会の意向を固め、当協会の最高機関である総会に議案として上程することに至りました。

その後、総会の議事をスムーズに持つて行くべく、事前説明会を各委員会毎に実施し、調査内容の説明と資料配布により、会員の「社団法人」に対する理解を深める賛否の判断材料を提供し、会員個々の意志決定をうながしました後、九月二一日の臨時総会に於いて、満場一致で「社団法人」の取得を議決するに至った訳であります。

五八年十月現在準備委員により、官庁への提出書類等の準備に入り、十二月四日の設立総会を経て、五九年四月一日発足を目処に取組んでおります。

新しい歴史に挑戦する!!

今、創立の精神に立ち戻り、
英智と実践を持つて

「社団法人」化には主務官庁である県知事の許可と登記が必要であり、「権利・義務の主体たる資格」を有すると云うことは、必然的に主務官庁の監督下に置かれ、一定の拘束を受けると云うことですが、これを我々の一つのトレーニングとしてとらえ、当協会の設立目的である「会員の団結と相互扶助の精神に基く、自己の建設と会員の親睦を図り、もって地域社会の発展に貢献する」ことを更に拡充する為、法人として社会的に、法的に認められた団体を決意した訳であります。

今後「社団法人」に恥ない会員の資質の高揚を計り、他に類の無いローカル性豊かな、地域に密着した青年組織として、研鑽を重ねながら、長崎市を中心とした地域経済の健全なる発展と平和社会の実現を図ると共に、地域の文化、福祉、環境の発展に微力ながらも尽くして行きたいと考えております。

長崎青年協会の歌

作詞: 小川一朗
作曲: 松尾藤美

1. おとこかゆかし いのきとをに
ちやまおし くみがけしは わ
れらがきだめ せいねんのあ
すのこきょう 一を まもるため
あながき せいねんきょうかい 2. と

わにふめつ のとも しよう かる かわ
げてきよう 一もの まご から はし た
まいのうらよと トリの ここの いむ なんは あ
すのこきょう 二を つきくるため あ
あながき せいねんきょうかい 3. ね
ねんきょうかい

(三)

(二)

(一)

文化豊^{ゆか}しい この郷^{さと}を
日夜まぶしく みがけしは
我等^{われら}が宿命^{さだめ} 青年の
明日^{あした}の故郷^{むちう}を 守^{さと}るため
鳴呼長崎青年協会
永遠に不滅の 憲章^{けんじよう}を
掲^{かか}げて今日も 益^{ますら}荒男^おは
瓊^{たま}の浦より こぎいでん
明日の故郷を 創^{つく}るため
熱血沸いて もえたぎる
鳴呼長崎青年協会

我青雲の こころざし
愛と真理の この胸は
明日の故郷を 築く夢
鳴呼長崎青年協会

長崎青年協会の歌

作詞 小川一朗
作曲 松尾藤美

編集後記

この度、当長崎青年協会の創立十五周年を迎えて、本紙発刊にあたりまして、御多忙中のところ寄稿して戴きました皆様方に心より御礼申し上げます。

この創立“十五周年記念誌”には、当長崎青年協会の憲章にある“会員の団結と相互扶助の精神”に基づいて、先輩諸氏並びに現会員が残した歩みと活動の足跡を掲載し、当長崎青年協会及びその活動を御理解して戴く為に、又次の五年十年の協会活動の礎とならん為に編集の運びと相成りました。

十五周年の節目を迎えて、本誌の編集に携わる事が出来ました事は私共にとって大変光榮に存じておりますが、皆様方の玉稿を盛つた本紙の出来栄は必らずしも満足とは云い難くお詫び申し上げます。

又本紙の発刊に際し、御支援と御協力を戴いた会員を始め関係各位に衷心より御礼申し上げ、発刊の御挨拶に代えさせて戴きます。

昭和五十八年十一月二十一日

広報委員長 徳本知行
副委員長 徳本知弘
委員 岩永青太
同 同 同 同

馬場正勝
杉本善郎
宮崎博幸
松尾豊明